

鶏肉情勢

項目	内容
生	(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会1月下旬実施)によると、12月の推計実績は、処理羽数66,061千羽(前年比102.5%)・処理重量199.3千ト(同104.5%)と羽数・重量とも前年を上回り、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同102.5%)は計画並みも、処理重量(同103.0%)が生育好調による増体の影響で大きく上回った。2019年の年間計では、処理羽数711,488千羽(同102.1%)、処理重量2126.0千ト(同102.9%)と共に前年を上回った。なお、12月の生鳥処分は廃棄合計3.75%(前年差△0.04%)、年計では3.41%(同△0.04%)となっている。
	(2) 2月~3月計画では、2月は処理羽数(同107.0%)・処理重量(107.3%)、3月も処理羽数(同102.0%)・処理重量(同102.6%)と、両月とも前月時点の計画より上振れた見通しとなった。特に2月は開年の影響もあるが南北の主要産地中心に高い伸びとなっている。令和2年も昨年に続き、潤沢な供給で幕を開けたが、単なるテーブルミート向けの需要喚起だけでは消化できるとは考えられないため、惣菜部門の着実な伸びへの対応や、「サラダチキン」に続くヒット商品としての加工食品の新規開発、さらには海外への輸出増といったチャレンジングな取組みが、今年の大きなテーマとなると思われる。
産	(1) 財務省が1月30日に公表した貿易統計によると、12月の鶏肉(原料肉)輸入量は44.9千ト(前年比95.6%)で、日本食肉輸出入協会の予測(44.1千ト)を約0.8千ト上回った。国別ではブラジルが予測を約0.9千ト下回る31.6千ト(同88.9%)、タイは反対に約1.8千ト上回る11.8千ト(同119.5%)となった。同協会(1月20日取り纏め)によると1月41.9千ト(同99.8%)・2月46.3千ト(同111.7%)と予測されており、「畜産物全般にわたり消費の伸び悩み傾向がみられ、鶏肉消費も堅調ではあるが、右肩上がりに増えているわけではない。輸入品もブラジル産、タイ産ともに对中国向け価格が落ちている状況にあり、現状では国内価格が上がる兆しは見られない。一方、ブラジル産の12月の船積み数量が多いことから、2月以降の価格がどう動くか注目される。」とコメントしている。また、新型コロナウイルスによる肺炎の拡がり外食部門等にどの様に影響するのか、また中国の製造業等への影響がどの様になるのか、さらにアジア地区におけるASF等の影響等も引き続き注視が必要と思われる。
	(2) 鶏肉調整品の12月輸入量は46.9千ト(前年比101.6%)と、前月よりは1.7千ト増加した。年間輸入量は512.4千トと昨年に引き続き500千ト台の大台を超えた。近年の外食・中食の需要増加を反映していると思われる今後も続くと思われる。国別ではタイ産の伸びが続いており前年比104.1%の315.4千ト、反対に中国は同92.5%の191.2千ト。シェアではタイ61.6%、中国37.3%と両国で約99%を占めている。
需	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、11月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は3,797g(前年比98.2%)、金額は5,474円(同97.4%)となった。例年より気温が高く、野菜が高値に推移した等で鍋物需要が低調だった。牛肉はステーキ・焼肉用等が好調で数量(同100.8%)は上回ったものの金額(同97.1%)は下回った。豚肉は数量(同96.4%)金額(同97.3%)とも下回った。鶏肉については前月に引き続き、数量(99.4%)は前年並みに推移したものの、量販店等での特売頻度の増加等により金額(同97.8%)は下回った。
	(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、12月の食品売上高は全店ベースで前年比100.8%と前年並み、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比101.3%、既存店ベースでは同99.8%と若干下回った。畜産部門の売上高は1,253億円(同100.8%)で上回り、既存店ベース(同99.3%)では下回った。「前年より気温が高く総じて鍋物用を中心に動きが悪かった。年末商戦は、すき焼き用など和牛の動きが良かった。国産豚肉相場が上昇しており、代わって輸入豚が好調となった。クリスマスが平日となった影響を受け鶏肉は不調となった。ハムなどのギフトは振るわなかったとのコメントが多い。」と報告されている。また、惣菜部門(同102.2%・同101.1%)はオーダブルやパーティ向け惣菜が鈍かった一方で、少人数用向けの動きが良かった。ローストチキンについては販促を強化している店舗が多く、成果をあげている。年末は高額寿司類やオーダブルが好調でチャンスロスが発生した店舗もみられた。おせちは予約販売を中心に好調となった店舗が多い。としている。
	(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによる11月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比99.2%の4,768千トとなった。うち国内物は同102.6%の4,002千トと前年を上回ったが、輸入物は同84.7%の0,766千トと下回った。1-11月累計で、合計では同103.1%の50,959千トと前年を上回っている。鶏肉加工品は12月以降も需要は堅調で増加傾向は変わらず、国産むね肉価格が比較的低位で安定していることで国産比率が高まっており、さらに国産物での製造量増加を期待したい。
在	(1) 推計期末在庫は国産28.6千ト(前年比100.6%・前月差△0.7千ト)、輸入品137.6千ト(同99.9%・同△0.3千ト)と合計で166.2千ト(同100.0%・同△0.98千ト)となった。生産量が0.5千ト減少し、輸入量も2.7千ト減少した。国産品の出回り量が生産量を若干上回ったため、国産品の在庫は微減した。輸入品も出回り量が約0.9千ト増加の49.1千トだったため在庫が微減し、前年と同水準となった。
	(1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(1月29日公表)では、12月は国内生産量が前月比で約13.3千ト増加、輸入量は前月比で約4.7千ト減少、出回りは前月比で約12.0千ト増加するため期末在庫は約161.8千トと前月より約4.4減少するもの前年より約1.5%増加の見通しとなっている。
相	(1) 1月の平均相場は、もも肉622円/kg(前月比+16円)・むね肉262円/kg(同△4円)正肉合計で884円/2kgと前月比で12円上回ったが、前年比では35円下回った。もも肉は年始626円で始まり乱高下を繰り返し、例年より暖かい日が多く鍋物需要が低調で、月末相場611円と結果15円安となった。むね肉は、価格が上がっている輸入玉を背景に加工用で引合いが増加し、量販店等の特売用で一定需要があったものの、年始264円・月末259円の5円安の保合い圏内の推移となった。
	(1) 気象庁の1か月予想では、2月の平均気温は、北日本は前年並みまたは高く、曇りや雪の日が多く、その他の地域でも前年よりも暖かいとしている。野菜が安値の予想も鍋物需要にも影響が懸念され、出荷数量増の予測のなかももも肉は月平均590円の下げと予測する。むね肉については、加工筋の引合いも堅調で保合い圏内で月平均260円と予測する。

実績											
生産状況											
単位:千羽、千トン、%											
履歴	R元年12月推計実績		2019年計		R2年1月計画		R2年2月計画		R2年3月計画		
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	
入雛羽数	67,184	102.2%	756,117	102.0%	65,169	100.2%	61,249	105.1%	62,422	101.9%	
処理羽数	66,061	102.5%	711,488	102.1%	59,378	104.6%	59,588	107.0%	62,122	102.0%	
処理重量	199.3	104.5%	2,126.0	102.9%	176.6	104.7%	176.7	107.3%	185.1	102.6%	
※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」											
輸入動向											
単位:千トン、%											
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R元年9月	53.6	40.2	133.2	41.1	38.2	107.7	94.7	78.4	120.8	56.6	43.4
R元年10月	51.6	54.4	94.8	45.5	50.5	90.1	97.1	104.9	92.6	53.1	46.9
R元年11月	48.8	43.2	113.1	45.2	50.0	90.3	94.0	93.2	100.9	51.9	48.1
R元年12月	44.9	47.0	95.6	46.9	46.1	101.6	91.8	93.1	98.6	48.9	51.1
R元年累計	562.9	560.3	100.5	512.4	513.6	99.8	1,075.3	1,074.0	100.1	52.3	47.7
※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞											
鶏肉の消費動向(2人以上の世帯)											
単位:グラム、円、%											
履歴	数量			金額			相場(年別・暦年)				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	もも肉		むね肉		計
R元年9月	1,343	1,368	98.2	1,242	1,302	95.4	H26年	626	294	920	
R元年10月	1,483	1,480	100.2	1,312	1,371	95.7	H27年	639	336	975	
R元年11月	1,452	1,461	99.4	1,309	1,339	97.8	H28年	621	255	876	
R元年平均	1,390	1,373	101.2	1,271	1,292	98.4	H29年	626	315	941	
※参考資料:総務省統計局HP											
在庫状況											
単位:千トン、%											
履歴	国産			輸入品			合計				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R元年8月	28.7	28.9	99.4	128.2	140.1	91.5	157.0	169.0	92.9		
R元年9月	29.9	27.8	107.4	134.5	135.0	99.6	164.3	162.8	100.9		
R元年10月	29.3	28.9	101.3	137.9	137.8	100.0	167.2	166.8	100.2		
R元年11月	28.6	28.4	100.6	137.6	137.8	99.9	166.2	166.2	100.0		
※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構											
相場(月別)											
単位:円、%											
品名	もも肉			むね肉			正肉合計				
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R元年10月	556	570	97.5	254	270	94.1	810	840	96.4		
R元年11月	570	588	96.9	262	274	95.6	832	862	96.5		
R元年12月	606	618	98.1	266	279	95.3	872	897	97.2		
R2年1月	622	648	96.0	262	271	96.7	884	919	96.2		
R2年2月	(590)	650	90.8	(260)	256	101.6	(850)	906	93.8	※()は見通し	
R2年3月	(570)	628	90.8	(260)	238	109.2	(830)	866	95.8		
R元年平均	585	595	98.3	243	282	86.2	828	877	94.4	※1-12月平均	